



OTハイブリッドリリー ‘イエローウィン’ での 5月に掘り上げた切り下球の冷蔵方法



冷蔵方法	図1 5月に掘り上げた切り下球を用いた場合に想定される作型											
	月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	
予冷12週間 + 本冷8~12週間	▲	■	■	■	■	■	●	■	■	■	■	
掘り 上げ	▲	■	■	■	■	■	●	■	■	■	■	
予冷8~12週間 + 本冷12週間	▲	■	■	■	■	■	●	■	■	■	■	
▲	■	■	■	■	■	■	●	■	■	■	■	

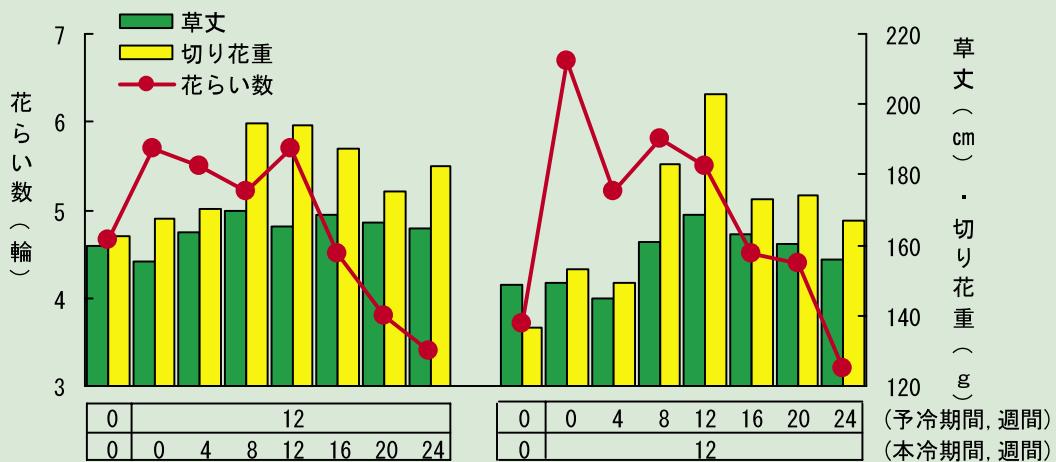


図2 5月に掘り上げた ‘イエローウィン’ の切り下球に対する冷蔵期間と切り花品質との関係
注) 13°Cで予冷後、2°Cで本冷して定植。

OTハイブリッドリリーは、黄色いオリエンタルハイブリッドリリーとも言われ、近年栽培面積が急増しています。しかし、球根のほとんどを海外から輸入しており、10~1月に利用できる球根が不足することがあります。そこで、切り下球を利用するため、5月に掘り上げた ‘イエローウィン’ を用いて、冷蔵期間中の予冷(13°C)と本冷(2°C) が切り花品質に及ぼす影響を検討しました。

その結果、13°Cの予冷を12週間とした場合には、2°Cで8~12週間の本冷、2°Cの本冷を12

週間とした場合には13°Cで8~12週間の予冷で、品質の高い切り花が得られました。その他の組合せでは草丈が低くなったり、ボリュームや花らい数の減少がみられました。

したがって、5月に掘り上げた ‘イエローウィン’ の切り下球は、前述の冷蔵により10月上旬から11月上旬に定植することができます。

今後は、さらに12~1月に定植できるように、切り下球の掘り上げ時期や冷蔵温度等について検討する予定です。

(花き担当 二宮 千登志 088-863-4918)